

報告番号：甲・ <input checked="" type="checkbox"/> 第 2159 号		氏名： 佐藤 弘樹	
論文審査 担当者	主査 教授 濱岡 隆文 印		副査 教授 井上 猛 印
			副査 教授 河島 尚志 印
<p>審査論文</p> <p>題 名：Lower youth steps/day values observed at both high and low population density areas: a cross-sectional study in metropolitan Tokyo (高人口密度地域と低人口密度地域のいずれでも小中学生の1日平均歩数が低い-東京都における横断研究-)</p> <p>著 者：Hiroki Sato, Shigeru Inoue, Noritoshi Fukushima, Hiroyuki Kikuchi, Tomoko Takamiya, Catrine Tudor-Locke, Yuki Hikiyama, Shigeho Tanaka</p> <p>掲載誌：BMC Public Health 18:1132 (2018)</p>			
<p>論文要旨：</p> <p>本研究は、低人口密度の島艇部から超高人口密度の都心部まで幅広い人口密度の地域を有する東京都の大規模調査データを基に、人口密度と小中学生の身体活動量との関係を、1日平均歩数を指標として明らかとすることを目的とした。対象は2011年東京都が実施した児童・生徒体力調査の参加者のうち、本研究の適格基準を満たした6-15歳までの13,688人とし、5群(2,500人/km², 2,500-5,000人/km², 5,000-7,500人/km², 7,500-10,000人/km², >10,000人/km²)に分けた。人口密度と1日平均歩数(総歩数、校内歩数、校外歩数)の関係を線形混合モデルにより男女別に解析した。総歩数と校外歩1数土、男女ともに人口密度が特に高い地域と低い地域で低直となる逆U字型の分布を示した。総歩数は、対照群(5,000-7,500人/km²)と比較して最も人口密度が高い群では男子-987±373歩、女子-868±338歩、最も人口密度が低い群では男子1,077±458歩、女子-1,059±414歩で有意に少なかった。校外歩数もほぼ同様の傾向であった。校内歩数1土群間で有意差はなかったことから、人口密度による総歩数の差は校外歩数に起因すると考えられた。</p> <p>審変過程：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究は、東京都および東京医科大学医学研究倫理審査委員会の承認を経て、倫理上適切に実方面されたものである。 2. 木集団を選んだ理由、理想的な歩数、メンタルヘルスとの関連、地理的環境、気象環境、役会経済的環境等が本研究に与える影響について適切に回答できた。 3. 本研究に関するその他の影響因子や交絡因子について、十分な知識を有していた。 4. 今後の研究課題等について適切に回答できた。 <p>価値判定：</p> <p>本研究は、小中学生の総歩数が超高人口密度と(低人口密度のいずれの地域でも低い)逆U字型の関係にあることを明らかにした初めての研究である。小中学生の身体活動をどう確保するかについて、今後の健康増進対策、公衆衛生的政策への重要な示唆を与える点で学位論文としての価値を認める。</p>			